

2 特色ある学園づくり

①施策の展開	小中一貫教育の推進	課名	教育指導課
②取組概要	<p>小中一貫教育のもと、それぞれの中学校区が9年間で<u>めざす子ども像</u>⁽²⁾を明確にする中で、特色ある学園（中学校区）づくりを推進し、子どもたち一人ひとりの学力・心力・体力をさらに高める。</p>		
③構成取組	<p>(1) ドリームプラン事業 (2) 地域人材活用事業 (3) 学校評議員 (4) 教育実践の研究文・募集・褒賞式関係事務</p>		
④取組計画	<p>(1) 平成23年度より<u>寝屋川12学園構想</u>⁽³⁾として特色ある学園（中学校区）づくりを、3校（中学校1校、小学校2校）で進めるため、中学校区ごとの選考としている。校長会で趣旨説明の後、3校の校長がまとめた中学校区ごとの計画書・予算書を提出し、その後、選考委員会による書類審査及びプレゼンテーションによる選考会を実施し、指定中学校区を決定する。</p> <p>(2) 地域人材の登録申請の後、小学校が総合的な学習等の講師として活用する。</p> <p>(3) 教育に関する理解及び識見を有する者のうちから、校長が推薦し、市教育委員会が委嘱する。（各校5名程度）</p> <p>(4) 校園長会において実践文の募集を行う。教職員の応募の後、選考委員会による審査を行い、最優秀賞、優秀賞、優良賞を決定する。また、褒賞式において、全員への褒賞授与とともに選考結果の発表を行い、さらに最優秀賞受賞者による実践発表を行う。</p>		

⑤取組実績

(1) すべての中学校区が、めざす子ども像を掲げた小中一貫教育推進図を示し、ドリームプランについて積極的なプレゼンテーションで紹介した。6つの観点（子どもにとって魅力あるプランか。中学校区としてどう連携していくのか。学校全体で取り組めるのか。保護者、地域から支持されうるか。成果が期待できるか。予算が適しているか。）を審査した結果、12中学校区が選考され、中学校区ごとの創意・工夫ある教育を推進した。

<各中学校区の主な取り組み>

【一中校区】

■中学校区推進テーマ

校区で育つ子どもたちの成長物語

①レベルアップ ②パワーアップ ③マナーアップ

■中学校区での取り組みの概要

○楽しく鍛えるSN（スクールネットワーク）

授業力アップ、共同研究、English Presentation Contest

○教職員が創造するSN（スクールネットワーク）

子ども支援会議、教科指導交流、小中交流部会

○保護者・地域・外部人材と協働SN（スクールネットワーク）

子育てサポート活動、地域行事への参加、石巻ネットワーク

【二中校区】

■中学校区推進テーマ

平成24年度重点テーマ 『姿勢Ⅱ 3S』

①Style『美しい姿勢(体力)』

②Soul『前向きに取り組む姿勢(学力)』

③Scrum『仲間作りの姿勢(心力)』

■中学校区での取り組みの概要

・「美しい姿勢(Style)」を保幼小中協働で体幹を鍛え、体力・学力・心力の向上。

・「タブレット端末」を活用した協働学習。

- ・支援教育公開研究会。

【三中校区】

■中学校区推進テーマ

「香里園元気学園 ～地域に誇れる学園構想～」

9年間で、「誇り」を持たせる教育を進めます！

■中学校区での取り組みの概要

- ・「心育」の推進 ～わ楽器で育む、香里園元気学園のわ～
和楽器（北小…三線、田井小…和琴、三中…和太鼓）を通して「日本の心」を学ぶ
- ・香里園元気学園サミットの開催

【四中校区】

■中学校区推進テーマ

自ら学び 共に創る 学園生の育成

■中学校区での取り組みの概要

- ・ノーチャイム制の導入（チャイムがなる前に行動）
- ・ICT機器を活用しわかる授業（収納式スクリーン設置）
- ・学園3校夏季合同研修会
- ・学校ガイド発行

【五中校区】

■中学校区推進テーマ

「どんな場面でも凛とした学びの姿勢が貫かれている子ども」
学力と社会性を身につけた爽やかな子どもの育成

■中学校区での取り組みの概要

- ・5-GOサミットの実施
 - ・第3回子ども議会の開催
- まちかど清掃
- ・小中合同部活動の実施
 - ・小中合同研修会

【六中校区】

■ 中学校区推進テーマ

「学力が身についた子ども 健康でたくましい子ども 心豊かな子ども」の育成をめざし、学力・体力・心力の向上を図る

■ 中学校区での取り組みの概要

- ・ 学力向上…問題データベース「学習クラブ」を活用した、放課後・長期休業中の学習会の開催
- ・ 体力向上…ミニハードル等の教具を効果的に使った基礎体力向上
- ・ 心力向上…茶道体験をとおした日本の伝統文化に学ぶ
- ・ 校区カレンダー

【七中校区】

■ 中学校区推進テーマ

自らの力と意志で進路選択できる子

■ 中学校区での特徴的な事例や成果

- ・ 「萱島くすの木太鼓」の協力での和太鼓の取り組み
- ・ 和太鼓フェスティバル参加
- ・ 「キャリア教育」の一環として「ものづくり教室」を実施

【八中校区】

■ 中学校区推進テーマ

学びいっぱい・夢いっぱい・元気いっぱい 寝屋川西部学園の子ども達!!

■ 中学校区での取り組みの概要

- ・ 「移動美術館」と名づけ名画を3校で巡回展示
- ・ ICTの活用等、授業力を向上させる研究授業
- ・ 中学生や地域人材がサポートによる小学校の校庭キャンプ実施
- ・ 小中で一貫した道徳の授業を推進

【九中校区】

■ 中学校区推進テーマ

小中九年間で育てる「知・心・体」の調和のとれた元気な子ども～あたたかい保護者・地域の『活力』を生かした学園づくり～

■ 中学校区での取り組みの概要

- ・三校合同先進校視察
- ・学力向上への取組
- ・三校夏季合同研修

【十中校区】

■ 中学校区推進テーマ

自らの力で進路を切り拓く子どもの育成 ～学びへの挑戦～

■ 中学校区での取り組みの概要

- ・ドリーム講演会（平泳ぎ日本記録保持者不和央氏による）実施。

【友中校区】

■ 中学校区推進テーマ

Thinking Act「考☆動☆力」 国際人を育てるキャリア教育

■ 中学校区での取り組みの概要

- ・道徳教育研修会の実施。

【中木田中校区】

■ 中学校区推進テーマ

- ・“伝える力”を育てます
- ・“あいさつ”でつながる校区 “英語”でつながる校区
- ・“児童と生徒”がつながる校区 “小中の教師”がつながる校区

■ 中学校区での取り組みの概要

- ・校区夏季教員研修ことばセミナー「話す・読む」トレーニング
- ・小・中英語交流会

(2) 小学校で783回の活用を行った。具体的には、伝統文化指導

(和太鼓、華道、茶道)、音楽指導、伝承遊び指導、国際交流指導、食育指導等、31 種目の講師として招聘した。

<地域人材の総活用回数>

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
総活用回数	840 回	771 回	783 回

(3) 小中学校で 159 名の学校評議員を配置した。

<学校評議員の人数・内訳>

	保護者	自治会	企業	社会 福祉	社会 教育	学識 経験	同窓会	その他	計
小学校 計	23 人	30 人	3 人	19 人	5 人	16 人	2 人	9 人	107 人
中学校 計	11 人	16 人	3 人	8 人	5 人	6 人	0 人	3 人	52 人
24 年度 計	34 人	46 人	6 人	27 人	10 人	22 人	2 人	12 人	159 人
24 年度 %	21%	29%	4%	17%	6%	14%	1%	8%	100%

(4) 教職員の応募数 148 点（個人研究 137 点、共同研究 11 点）
中、最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、優良賞 5 点を表彰し、うち
最優秀賞・優秀賞の作品を褒賞式にて表彰した。

<年度別応募点数>

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
応募 数	総 数	135 点	154 点	148 点
	個人研究	120 点	139 点	137 点
	共同研究	15 点	15 点	11 点
応募校園数		4 幼稚園・ 全小中学校	全幼稚園・ 全小中学校	5 幼稚園・ 全小中学校

⑥評価

- (1) 中学校区の課題や特色について3校が互いに共通認識を深め、中学校区及び各校のプランを実施したことで、寝屋川12学園構想がより推進し、市内全ての学園で、学力・心力・体力の向上を中心とした学園づくりが進んだ。また、課題解決に向け、中学校区で共通した内容を学ぶ3校合同の研修会や先進校視察などの実施により、より一体感のある取り組みもより多く見られるようになった。しかし、これまでの学校ごとの特色ある取り組みを継続しつつ、中学校区の取り組みも進めていかなければならない点などの課題もあった。
- (2) 学校・家庭・地域社会が連携し、学校外の専門的な技術や知識をもった人材を活用することで、心のふれあいのみならず、新鮮な驚きや心を揺さぶる感動を伴う体験活動を実践する場となった。学校の活性化が図られ、児童と地域の人たちのコミュニケーションも活発となり、開かれた学校づくりが進んだ。また、環境教育、食育指導、福祉・ボランティア体験に加え、体育や芸術など各教科領域においても、活用を深めることができた。
- (3) 学校運営や学校の教育活動について、地域住民や保護者等の意向を把握・反映させることで、学校・家庭・地域が連携協力しながら一体となって、学校長のリーダーシップのもと、子どもの健全育成のための開かれた学校づくりを推進することができた。年間の学校評議委員会の開催数も増加するとともに、運動会・体育大会等、様々な学校行事へも積極的に参加いただいたことで、日常的に意見を求めることができ、学校改革に活かすことができた。今後とも、校長の学校経営に対する意見をいただくための人選を進めるとともに、機会を増やしていく必要がある。
- (4) 自らの実践内容を整理し、指導を改善することで、教職員の指導力向上が図られることに加え、実践研究の成果を市全

	<p>体に広く普及させることにより、教育活動の充実や小中一貫教育の推進に活かされていると考えられる。しかし、選考委員からは、経験豊富な教員の退職が進み、経験に裏づけされた優れた研究実践文が減ってきているとの指摘もある。今後、若手教員の育成をより進めるために、優れた実践をどのように継承していくかが課題である。</p>
--	--